



■いつもお祈り感謝いたします。

*熊本地震ボランティア

先日5月20日(金)～5月23日(月)に、学生有志7名(吉橋雄介、泉ユリエ、林茉莉、川上栄輝、姜徳模、上門豊明、Georgina)が熊本へボランティアに行ってきました。皆さんには、多くの祈りと献金によるサポートを賜り感謝します。今回は、ボランティアから無事帰ってきた報告と、ボランティア活動の報告をさせていただきます。

〈活動報告〉

私たちは、学生有志の7名で、熊本へボランティアに行ってきました。5月20日(金)の午前7時にTCUを出発し、片道19時間かけて、熊本へ行きました。

5月21日(土)は、九州キリスト災害支援センターの指示のもと、ワールド・ビジョン・ジャパンの方々と協力し、熊本県内の益城町にある避難所へ行き、避難所で生活している子どもたちの心のケアをするボランティア活動をしてきました。避難所生活でストレスがたまっている子どもたちと思いきり外で遊びました。また、避難所にはまだまだ多くの避難者があり、車中泊やテント泊をしている方々もいました。

5月22日(日)は、TCUの卒業生が現地で牧会をされているJECA鹿本キリスト教会へ行き、礼拝をささげました。教会員の方から、震災の話を聞いたり、とても良い交わりを持つことができました。午後には、被災地の視察を行ない、倒れた建物や亀裂の入った道路、崩れた山の斜面、など様々な地震による被害を見ました。

5月23日(月)午前4時に、熊本を出発し、午後11時に無事TCUへ帰ってきました。4日間のスケジュールが守られたこと、往復の運転が守られたこと、ボランティアに参加した学生それぞれが多くの恵みと祈りの課題を受けることができたこと、が何よりの感謝でした。

〈感想〉

熊本ボランティアに参加した学生の感想です。

- ・倒壊した建物や、避難所、車中泊やテント泊をしている方々を見て、心が痛かった。
- ・精神的ストレスや様々な問題から、被災地はまだまだ深刻な状況であり、多くの助けと祈りが必要であると感じた。

・ボランティア活動が「子どもたちと遊ぶ」ことであっても、それが子どもたちの心のケアになるということがわかった。

・子どもと関わるボランティア活動を通して、子どもたちからも励まされた。また、愛されるという体験もすることができた。

・子供たちが遊び場や遊び相手(大人)を必要としていると感じた。また、そのための働きが既になされていることに感謝。

・他のボランティアスタッフの、「人に仕える姿勢」に感動した。

・本当に良い時間だった。良い経験になった。楽しかった。

・できることなら、続けて今回関わった子どもたちと、継続して関わりたいかった。

〈夏期伝道について〉

夏の夏期伝道旅行に、上門豊明、武井誠司、塩野明美、姜徳模、佐久間いずみ、本山弘明、遠田ゆりな、小林先生の8名が熊本へ派遣されます。ぜひ、夏期伝道旅行のためにもお祈りください。



←倒壊した建物

JECA鹿本キリスト教会
にて→



←九州キリスト災害
支援センターにて

お祈りと献金のご協力、ありがとうございました。